

### 【実践3】 主体的な読みにつながる「書くこと」の指導

#### テキストを理解し、利用し、熟考するために 新聞記事に基づく意見文

##### 1 実践単元の位置付け

学習指導要領「国語」の「国語総合」における「読むこと」の指導事項に「工 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること」があるが、「学習指導要領解説」では、この項について次のように述べている。

「ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする」ためには、文章を読み味わうとともに書き手の言わんとするところをとらえ、共感したり、疑問に思ったり、思索したりすることが大切である。その中から生徒は自らの心情を豊かにし、思考力を育て、やがては人間、社会、自然などに対して自分なりの考えをもつようになっていく。したがって、指導に当たっては、読書指導とも関連付け、できるだけ多くの種類の文章に接する機会をもたせるとともに、単に読み取りの学習だけにとどまらず、話すこと・聞くこと及び書くことも含んだ、多様な言語活動を展開することが求められる。

また、「中等教育資料」平成17年6月号で、西辻正副（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）は、PISA調査（読解力）の結果から求められる指導改善項目として「テキストを理解・評価しながら読む力を高めること」「テキストに基づいて自分の力で書く力を高めること」「様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること」を挙げているが、これらのうち、前2項「テキストを理解・評価しながら読む力」と、読んだ内容について自分の意見を持ち、「自分の力で書く力」とは、切り離しがたく結び付いている。

生徒の実態をみると、例えば、テキストに書かれた筆者の主張をまとめて述べることができても、そのテーマについて意見を求められた場合には、読んだ内容とは全く関係のないステレオタイプの意見を述べる者が多い。テキストの全体あるいは一部分をまとめたり言い換えたりはできても、そこに書かれたことと自分の考えとを結び付け、読み取った内容を自分の考えを深めるために利用することができていないのである。これでは、「テキストを理解・評価しながら」読んでいるとは言えない。

「テキストを理解・評価しながら読む」とは、言葉で書かれた内容を自分の世界像の中に深く取り込み、その深みから出てくる反応を言葉にして考える、という双方向的な行為である。こうして読者は「ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたり」し、書かれた内容に対する自分の考えを確かめる。それを文章に表現することが「テキストに基づいて自分の力で書く」ことになる。

したがって、読んだ内容を踏まえて「書く」という学習活動は、「本当に読むことができているか」の検証につながり、また、「書くこと」を通じて「ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする」ような読みを指導することができるとも考えられる。そこで、新聞の囲み記事をテキストとして、「読んだ内容を踏まえて意見文を書くこと」また「相互に意見文を読んで評価すること」の学習指導を計画した。新聞記事を材料としたのは、内容が現代社会の動きを反映していて生徒の日々の生活に深くかわり、生徒が自分の体験や知識と結び付けて読むのに適していると考えたからである。また、総合的な学習の時間と結び付け、公民科など他教科と連携をする可能性も考えられる。

##### 2 実践単元における指導と評価の計画（3時間配当）

実践単元は、一年生「国語総合」の「表現の実践 意見を述べる」である。まず、新聞記事を読ん

で浮かび上がる問題点を読み取らせ（第1時）、その問題点をテーマに意見文を書かせ（第2時）、その後、できあがった意見文について自己評価・相互評価を行わせた（第3時）。

材料となる新聞記事は、千字程度の短いもので、生徒の日常と結び付きやすく社会的にも重要な話題を取り上げた比較的平易な文章を選んだ。（平成17年7月11日付け 産経新聞「クールビズ1カ月『28度設定』冷ややか」）

<p>記事のあらすじ</p> <p>地球温暖化に配慮して冷房を高め28度に設定する代わりにネクタイなしで仕事をするという「クールビズ」の試みがスタートして1カ月余りになるが、通勤電車の車内やレストランなどの商業施設で冷房の設定温度は例年とほとんど変わっていない。</p> <p>鉄道各社は、ラッシュ時の暑さや停車駅でのドアの開閉による温度上昇を考えると25、26度が適温だというが、各社とも本社オフィスは28度に設定しており、制服のない社員の服装にはクールビズを勧めているという。</p> <p>百貨店では、フロアが広く客の人数が流動的なので店舗内の温度を一定に保つことはないが、28度になると「暑い」という客の苦情が出るのでそれを下回る設定にしているという。</p> <p>ファミリーレストランは平均で25、26度になっているが、涼を求めて客が集まる8月は一番の稼ぎ時であり、集客を考えれば温度設定を上げるのは難しいという。</p> <p>環境省のクールビズ賛同団体に名を連ねる生活協同組合でも事情は同じであり、店頭に立つ社員以外はノーネクタイのエコスタイルを導入し、事務所などは28度に設定しているものの、店内は商品劣化の恐れと客への配慮から28度以下に設定しているという。</p>
---

時間	学習内容	具体的な評価基準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事を読み、書かれている情報を正確に読み取る。</li> <li>記事の提起する問題点を自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の情報を結び付けてとらえ、共通に含まれる問題点を自分の言葉でまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表の様子を観察する。</li> <li>プリントを点検する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事の提起する問題点を確認する。</li> <li>同じ問題点を含む事例を挙げたり、自分の体験と結び付けたりしながら、対策や展望を考える。</li> <li>考えたことを意見文にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事の提起する問題点に対し、自分の意見を根拠に基づいて明確に述べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想メモと意見文を点検する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文について、自己評価をする。</li> <li>意見文を数人で交換し、相互評価をする。</li> <li>反省・感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文を相互に評価することを通じ、問題点についてより深く主体的に考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価及び相互評価の様子を観察する。</li> <li>相互評価後の反省や感想を見る。</li> </ul>

### 3 実践単位における指導と評価の実際

#### (1) 第1時

今回取り上げた新聞記事は「クールビズ」を話題にしている。記事は、冒頭で「クールビズ」について「地球温暖化に配慮して冷房を高め28度に設定する代わりにネクタイなしで仕事をするという試み」と紹介した上で、「通勤電車の車内やレストランなどの商業施設で冷房の設定温度が例年とほとんど変わっていない」という実態を詳しく伝えている。この記事を生徒に読ませ、まず、鉄道各社・百貨店・ファミリーレストランなどが冷房の設定温度を上げない理由をそれぞれ読み取らせた。次に、それらに共通するのが「客への配慮」であることに気付かせ、鉄道各社が「本社オフィスは28度

に設定しており，制服のない社員の服装にはクールビズを勧めている」という記述にも注目させて，記事が浮き彫りにしている問題点を考えさせた。以下は，生徒が問題点としてまとめた例である。

- ・企業はお客様が入らなければ利益にならないので利益を得るためには環境よりもお客様が優先される点。
- ・企業が利益を優先しなければならない以上客のいるところで温度設定を上げることができず，あまりクールビズの効果を発揮できない点。

多くの生徒が，問題は個人の気持ちや考え方にあるというよりも構造的なものであるとらえていると言える。この後，更に同じような問題点を含む実例を考えさせ，今回はこれについて意見文を書くということを予告した。

## (2) 第2時

前時の記事から読み取った問題点を確認し，これについての意見文を書くためにまず構想メモを作らせた。自分の体験や実感と結び付けようとする時，環境問題についての日ごろの意識をも問題にせざるを得ないが，生徒たちの多くはこうした問題についてあまり深く考えたこともなく知識も少ないので，この段階で互いに情報や意見を交換させた。資料1 「別に地球が温暖化してもすぐには困らないからいい。お店が暑かったらお客が文句を言うのは当然。隣の店の方が涼しかったらそっちへ行く」というのが彼らの正直な実感であり，記事から読み取った問題点とその実感とを結び付けて考えるのがなかなか難しい。実感の方に重心がかかると「企業がお金を稼ごうとするのは当然であり，お客が涼を求めるのも当然である。環境問題は我々にとって遠い問題で，解決は難しいし解決する必要も感じられない」という極論になり，問題解決を強く意識すると「店舗冷房一斉規制をして，違反した店からは罰金を取る」「電気使用量制限をして，その日の使用量を超えた施設には電気を送らない」などの強硬な意見が飛び出した。ここではあえてバランスをとることはせず，メモをまとめさせた。その後，今回はできあがった作品を相互に交換して評価することを予告した上で，400字～500字程度の意見文を書かせた。その際，次の三点に注意して書くよう指示した。

- 1 テーマとなる問題点を分かりやすくはっきりと示すこと。
- 2 問題点に対する自分の考えを分かりやすく伝えること。
- 3 自分の考えの根拠を示すこと。

時間内に書き上げることができない場合は，次時までの課題とした。

### <資料1：構想メモ用ワークシート>

\* 「クールビズ」の試みに関する問題点を確認しておこう。

- ・お店はお客様のことを優先に考え，地球温暖化より利益が優先になってしまう。

\* これに対する自分の意見を簡潔にメモしておこう。

- ・自分達お客が環境に対する意識を高め，28度でも暑いと感じない服装をするなど，普段から気を付ける。

法律を定める。資源を大切に思う心を養う。少しくらい暑くても我慢する。

\*自分の意見に説得力を与えてくれるような実例や体験を挙げよう。実際の意見文に全部使わなくてかまわないので、思いついたことをどんどんメモしよう。

- ・国によっては「ポイ捨て」をすると罰金という法律がある。
- ・日本の都会ではヒートアイランドが増加しているので、「緑のカーテン」や「市民一斉水まき」をしている。
- ・ある国の学校では「環境の授業」や「森林とふれあう授業」があり、小さい頃から自然環境に慣れ親しんでいる。
- ・愛知万博では、ゴミの分別マニュアルをつくり、万博に協力した国の人々に渡し、その国でもゴミの分別をできるようにしていた。

(注) 枠内は生徒による記入例。

### (3) 第3時

初めに、自分の書いた意見文を読み返し、<資料2>の自己評価票を用いて自己評価をさせた。意見文を書く前に示した三つの注意点を確認し、ほぼ達成できていると思ったら「3」の評価をするように指示し、誤字脱字の有無や文章の読みやすさも評価規準に加えた。その後、列ごとに作品を回して相互評価票<資料3>に評価を記入させた。その際、文章一作品当たり数分の時間を与え、点数評価だけでなく言葉による評価(感想・意見)も書かせるよう留意した。

今回は作品にも記名をしたままで評価票にも記名をさせたので、遠慮もあって相互評価の点数は高めのものが多かったが、「感想・意見」には、「 は分かりやすく書けているが、 をもっとはっきり書いたほうがよい」といった記述も多く、評価規準を意識して読むことができていると感じた。同時に、ほとんどの生徒が他人の意見文を読みながら自分の意見を振り返ったり比較したりしており、自分なりの意見をもっていたようである。

例えば、生徒Aは、自分の実感から「28度設定」は実現不可能だとして「クールビズには反対」という意見を書いていたが、他の生徒の「28度設定を法律で定めて規制するべきだ」という意見に対しては、「私も法律や条例で規制してしまえばできると思った」とコメントしている。「お客様の私達一人一人が普段から環境に対する意識を高め、気を付ける必要がある」として、その方策をいろいろと述べていた生徒Bは、生徒Aの意見文を読んで、例えを使って実感を説明した部分が「分かりやすかった」とコメントし、自分の「反省・感想」に「比較の仕方を具体的なものと分かりやすい。自分の意見を分かりやすく簡潔にすると読みやすい」と書きつつ、「クールビズができないのは、仕方がないことになってしまうのだろうか?」と自問している。

生徒Cは、すべての店を「28度設定」にすることは法律で規制しても不可能だとし、「世の中の人々全員が環境を意識して28度設定でも気にしないか、もしくは、環境のために28度設定の店に入るぐらいのことが必要」と書いており、この問題をかなり考えつめていた。他の生徒の意見文に対しても、「クールビズに対する意見と地球温暖化に対する意見はしっかりと書いてある。しかし、なぜうまくいかないかの問題点に対する説明が書けていない」「意見としてはおもしろくははっきりと伝えられている。しかし実現は難しいと思うし、根拠の説明をもう少ししっかり書くべきだと思う」など、厳し

いが的確なコメントをしており、自分の「反省・感想」には「人の意見を評価することで自分の文章の問題点も分かり、とても勉強になった」と書いている。

最後に、5名ほどの相互評価票を付けた作品を筆者の下へ戻し、他人による評価と自己評価を比較させ、全体の反省や感想を自己評価票に記入させた。

<資料2：自己評価票>

意見文 自己評価票							
一年( )組( )							
評価する点	評価( で囲む)						
問題点を誰にでも分かるように示しているか。	5	4	3	2	1		
問題点に対する自分の考えを分かりやすく伝えているか。	5	4	3	2	1		
説得力のある根拠を示しているか。	5	4	3	2	1		
誤字や不自然な言葉遣いがなく、読みやすい文章であるか。	5	4	3	2	1		
合計点( )点							
<他の人からの評価との比較>							
他の人の評価は自己評価と比べて	高い	+ 2	+ 1	0	- 1	- 2	低い
この学習全体を通しての反省・感想							

<資料3：相互評価票>

意見文 相互評価票					
一年( )組( )さんの作品への評価					
評価する人 一年( )組( )					
評価する点	評価( で囲む)				
問題点を誰にでも分かるように示しているか。	5	4	3	2	1
問題点に対する自分の考えを分かりやすく伝えているか。	5	4	3	2	1
説得力のある根拠を示しているか。	5	4	3	2	1
誤字や不自然な言葉遣いがなく、読みやすい文章であるか。	5	4	3	2	1
感想・意見	合計点( )点				

#### 相互評価票「感想・意見」の例

- ・自分だったら嫌だという意見がとてもよく分かった。最後に、対策方法を書いていたらもっとよかったかもしれない。
- ・とても単純なことを問題点にし、そこさえなんとかできれば「クールビズ」はうまくいくということがはっきり書かれていて分かりやすい。
- ・これを読むまではすべて企業に問題があると思っていたけど、自分たちも客として努力できると納得しました。
- ・自分の意見を裏付けるしっかりとした根拠が書いてあったのでとても良いと思う。日本が沈むという恐ろしいことも書いてあり、説得力がある。クールビズというものがなんなのか、はっきり書けていたら完璧だと思う。
- ・最初から自分の意見が書いてあったので、問題点の説明があるともっと良かったと思います。意見の内容は、自分もそう思っていることなのでものすごく分かりやすかったです。

#### 自己評価票「反省・感想」の例

- ・自分の思っていることを人に伝えるのはとても難しいものだと思った。「私はこう思うが、あなたはどうか？」と筆者と自分の中で会話できることがおもしろいと感じた。
- ・人の意見文を読んでいると、後から「確かにそうかも・・・」と思うことが何度かあった。改めて考えてみることでできてすごく新鮮だった。
- ・もっとたくさんの人と評価しあいたい、と思った。今度はもっと説得力のある文を書きたい。
- ・皆、色々な意見を書いていた。私は「こうしたらよい」ということではなく、「解決するのは難しい」ということしか書いてないので、「こうしたらよい」ということを書けば良かったと思いました。

3時間の学習が終了した後、それぞれの作品について教員の評価を付け、作品と自己評価票・相互評価票に教員の評価票を加えて返却した。また、評価の高かった作品を、評を加えながら全員に紹介した。

#### 4 実践の今後の課題

今回は「国語総合」の一単元として行った実践であるが、今後ぜひ、総合的な学習の時間の年間指導計画の中で、国語科及び公民科などとの連携を見据えながら、新聞等の文章を読んで自分の意見を述べる学習活動を行わせてみたい。また、資料1の構想メモではワークシートを使用したがるが、自発的にメモを取る姿勢をどうしたら身に付けられるかについてもその方法を考察してみたい。意見文をまとめるにあたって授業を図書館で行うことで、国語科としての図書館の有効利用の方法を学習することも大切だと思われる。意見文をめぐる一連の学習活動には、「読むこと」及び「書くこと」が密接に関係している。今回は相互評価の際に評価票を用いたが、ディスカッションを取り入れれば「話すこと・聞くこと」の領域の学習も可能である。国語科三領域にわたる国語能力を育成する上で、意見文を書かせる指導は非常に効果的であり、今後も引き続き実践に改善を加えていきたい。